

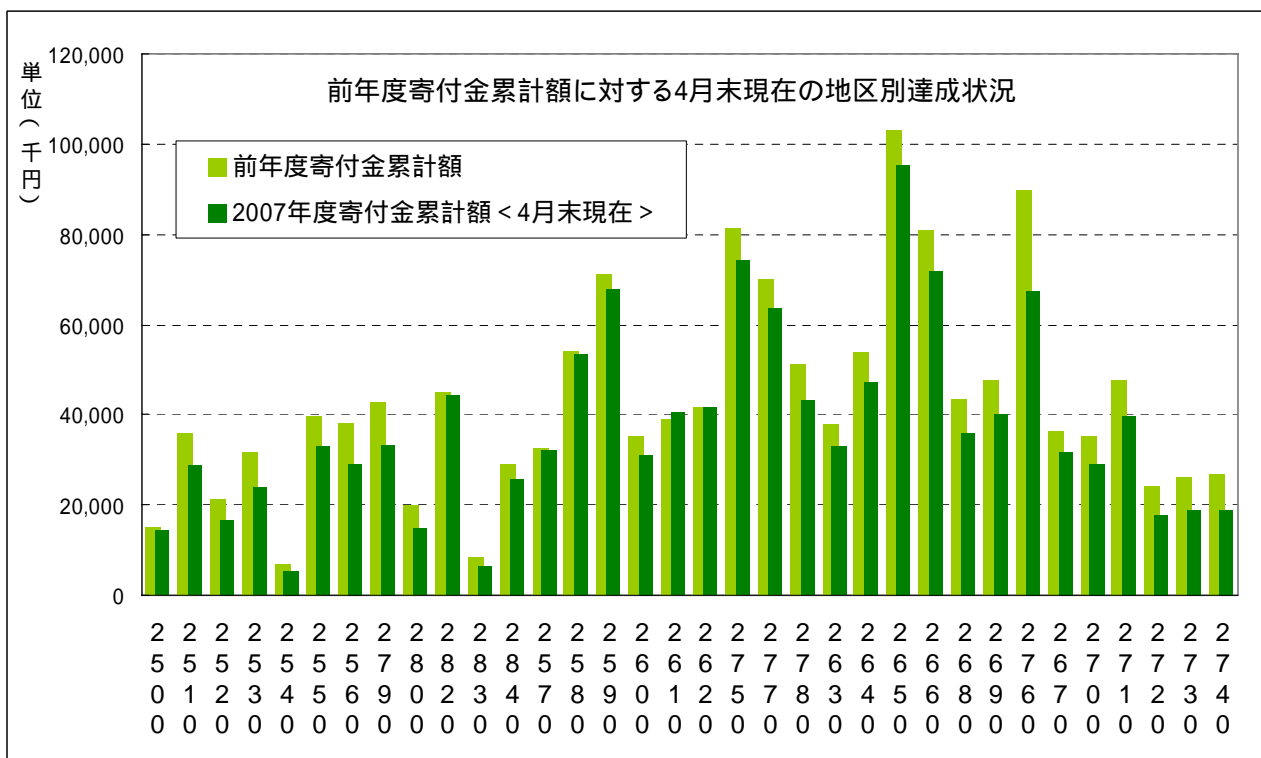
ハイライトよねやま 87

(財)ロータリー米山記念奨学会
2007年5月11日発行

1. 寄付金速報 再び前年同期比減少！

4月までの寄付金は、前年同期と比べて0.5%減、約600万円の減少となりました。普通寄付金が0.6%減、特別寄付金が0.4%減となり、前月の0.4%増から減少へと転じ、2006年12月以降、4カ月連続で前年同期を上回ってききましたが、残念ながらこの4月で再び記録が途絶えてしまいました。

今年度は普通寄付の納入が遅れており、4月30日現在で下期分がまだ納入されていないクラブが66クラブあります。(前年度58クラブ)今年度も残りあと1カ月半です。地区関係者の方々もご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



表彰制度が変わります

2007年7月より、当会寄付金に対する表彰制度が変わります。詳細はハイライトよねやま 85号か当会HPをご覧ください。

2. 現地採用奨学金、第2期生の募集がスタート

2年目を迎える現地採用ロータリー米山奨学生の募集が今年1月、ベトナムで始まりました。

昨年と同様、若者向け商業紙等に募集広告を掲載したところ、今年は70名(昨年度44名)にのぼる応募がありました(男性17名・女性53名、理系34名・文系36名)。

今後、5月中旬に筆記試験を行い、10名の候補者を決定します。候補者は、5カ月間の日本語研修を経て、12月に実施される最終面接に望みます。最終面接では、ロータリアンによって組織される選考委員会(米山奨学会・東京)の代表が面接官として現地に出向き、現地の学友代表と共に面接を行います。第2期生の採用は2名。合格発表は2008年2月前後、入国は同年4月～9月を予定しています。



第1期生のゴ・ホン・チュンさん[2580地区/高齢者福祉研究/日本社会事業大学]、

タイ・ヴァン・ナムさん[2660地区/ベトナム土壌研究/大阪大学]は、今年7月に来日予定です。

3. マラリア根絶に向けた新薬研究で若手科学者賞受賞【米山学友 金恵淑さん】

岡山大学大学院・准教授として抗マラリア薬の開発研究に励む金恵淑さん【韓国 / 1993-95年 / 岡山大学大学院 / 備前 RC】が、平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」受賞の栄誉に輝きました。同賞は、「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者」を対象とするもので、韓国人としては初の受賞となります。



受賞理由にもなった金さんが新たに開発した抗マラリア化合物は、既存の治療薬に耐性を示すマラリアに対しても効果があり、大量かつ安価に合成できるため、発展途上国に供給できる可能性が高いものとして期待されています。

奨学期間を終えて10年以上が経過した今も、カウンセラーの吉延四郎氏（備前 RC）との交流が続いているという金さん。吉延氏は金さんについて、「奨学生の頃から真面目で、一心に研究に打ち込む姿に感服していました。今回の受賞は、当クラブでお世話した奨学生としても初めての快挙。クラブを挙げて何かお祝いしたいと考えています」と、喜びを語ってくれました。

金恵淑さんからのメッセージ

「今回の受賞にあたり、その基礎を築いてくださったのは、ロータリアンの皆さまによるご支援のおかげです。本当にありがとうございます。米山奨学生になったばかりの頃は、毎月の例会出席に戸惑いもありましたが、いつの間にかその雰囲気を楽しんでいる自分がいました。現在、大学で学生を教えたり、研究指導をしたり、また、学会や研究費獲得のために自分を表現できるようになったのは、米山奨学生として経験したいろいろなことが凝縮された結果だと思います。熱帯病の根絶のためには国際貢献・国際奉仕の精神が何より大切です。米山奨学生として身に付けたこの精神を、マラリアで苦しむ人々の役に立てるよう、微力ながら実践していきたいと思います」

4. 新モンゴル高校校長ジャンチブ・ガルバドラッハさんが事務局来訪

モンゴル初の3年制高校を創設した米山学友、ジャンチブ・ガルバドラッハさん【モンゴル / 1998-99年 / 山形大学大学院 / 山形北 RC】が3月27日、米山奨学会事務局を来訪されました。



ジャンチブさんが校長を務める「新モンゴル高校」は、カリキュラムや学習指導方法に日本のモデルを採用した“日本式高校”で、卒業後に日本をはじめ、海外の大学に進学する生徒が数多くいます。今年も国費留学生として8人、私費留学生として15人が日本の国立大学・高専などへの入学を果たし、現在、日本留学中の卒業生は59名にもなります。その中で、昨年のビャムバー・バトザヤさん【2006-08年 / 千葉大学 / 木更津 RC】に続いて、今年も2名の卒業生が米山奨学生として採用されました。ジャンチブさんもこの報に大変喜び、日本のロータリアンからの支援に心からの感謝を述べられました。

ジャンチブさんの活躍は、『ロータリーの友』2006年12月号「よねやまだより」で詳しく紹介しています。